

株式会社 アクロエッジ

センサー・分析機器で ニッチな市場を開拓

- 海外発注可
- 納期相談
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン



新シリーズの「カストロン」(左) / 「カイシツ」(中央) / 「ステンシー」(右)

【業務内容】 「化学的変化を測る」 独自の分野で勝負

引張試験装置、樹脂硬化収縮率応力測定装置、UV硬化センサーなど、センサーや分析機器を開発・製造している。中宗憲一社長が「化学的変化を測るといって、どこも手がけられないが確実に需要がある分野で勝負している」と言うように、ニッチなマーケット開拓で成長してきた企業である。

装置類の組立は、一部を除き外部の協力企業に委託するというファブレス経営だ。従来は商社を通じて取引をしていたが、認知度の高まりから現在では、国内外問わず国際的な競争力を持つ多数の大手メーカーと直接取引に至っている。

【強み】 独自性高い開発力で 国際競争力ある顧客並ぶ

同社の強みは製品開発力にある。樹脂硬化収縮率応力測定装置「カストロン」は、経済産業省の「新市場創造型標準化制度」に採択され、平成30年にはJIS化が決定。UV硬化センサー「キュレア」は、同22年に海外で特許を取得した。表面改質センサー「カイシツ」も同27年から3年間、「戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)」に採択され、京都大学との産学連携により生まれた世界で唯一の装置だといふ。従業員は全員技術者で営業のみの担当者はいないが、独自性と技術水準が極めて高い製品を開発しているため、得意先リストにはパナソニック(株)をはじめとし、日本を代表する大企業の名が並んでいる。

【人材育成】 長期的な視野で 若手技術者を育てる

技術者のほとんどは30代の若手だ。中宗社長は「長期的視野に立って若い人を毎年

採用し、じっくり育てる」と話す。人材育成プログラムも充実しており、高分子合成が専門の角岡正弘氏(大阪府立大学名誉教授)に、月2回ほど従業員向けの講義を依頼。また、海外展開を見据えた英語力強化のため、関西外国語大学からも講師を招き週2回、全員参加の英会話学習会を開いている。

外国人技術者も増やしたいと考えて、平成30年9月にはベトナム国籍の大学院生を採用。その他にもJETRO(日本貿易振興機構)のサポートなどにより、フィリピンやケニアなど、さまざまな国籍の大学院生をインターンシップなどで受け入れている。

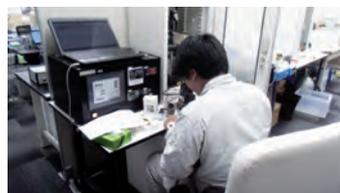
【今後の展望】 海外市場の開拓と 産学連携開発に注力

現在、海外向け製品の売上比率は10%ほどだが、今後3年間で約50%まで高めることを目標に市場を開拓する。当面は化学的変化を測るといふ需要が国内以上に旺盛なアジア市場への展開に注力するとともに、欧州への本格進出も視野に入れる。

新製品の開発にも注力する方針だ。現在は「カイシツ」同様、サポイン事業で京都大学と連携し、量子効果を利用した蛍光スペクトルによるナノ粒子分散凝集定量測定装置の開発を進めている。「完成すればこれも世界初の最先端装置になる」と中宗社長は期待をかける。



本社内のショールーム



すべての従業員が技術者

当社の歴史



京都の電子部品メーカーに在籍していた数名の技術者が独立して創業した企業です。小規模だからこそ実現する研究開発スピードの速さを武器に、オンリーワンの製品を作り続けてきました。平成28年には「エッジの効いた製品を生み出す」という意味を込めて、社名を「アクロエッジ」に変えています。

代表取締役 **中宗 憲一さん**

<https://www.acroedge.co.jp/>

主な事業内容

引張試験装置や樹脂硬化収縮率応力測定装置など分析機器の開発・製造

主な取引先(納入先)

自動車、フィルム、接着剤、化学、電子デバイスの各メーカー、大学など研究機関

- 住所 〒573-0164 枚方市 長尾谷町1-70-1
- TEL 072-836-0031
- FAX 072-836-0033
- 創業 昭和61年12月
- 設立 昭和61年12月
- 資本金 2,000万円
- 従業員 15名